

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	芸 術	科 目	音楽Ⅱ	学 年	2	類 型	商業科
単位数	1	教科書	MOUSA 2		出版社	教育芸術社	
副教材							

学習の目標	音楽の様々な活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育みます。また、感性を伸ばし、音楽のよさや美しさを感じながら主体的に表現・鑑賞することにより、自己の人生をより豊かにする態度を育てます。
授業の概要	ソルフェージュを通して読譜力を伸ばし、それを生かしながら歌唱・器楽・創作などの活動に取り組みます。また、表現と鑑賞を一体的に取り入れることによって、音楽的感性を総合的に高めていきます。音楽Ⅰで学習した歌唱・器楽演奏力を応用し、さらにレベルの高い演奏表現に挑戦することで、自主性や積極性を養います。また、アクティブラーニングを積極的に取り入れることにより、音楽性だけでなく、能動的な学習態度を育てます。

	期	単 元	教 材	学 習 内 容	評価の観点			
					①	②	③	④
年間学習計画	1学期	歌の楽しみ1 (日本の歌)	明日へのマーチ、 ハナミズキ、糸、道	・腹式呼吸による発声で歌う。 ・曲調、歌詞から曲の表情を読み取り、表現を工夫する。	○	◎	○	
		ソルフェージュ	リズム編 メロディー編	・読譜力を伸ばす。 ・楽譜からリズムやメロディーをイメージできるだけでなく、求められる表現を読み取る。	○	◎	○	
		ボディーパーカッション	Prelude I	・自分の身体だけを使った音楽表現を楽しむ。 ・記譜されたものだけでなく、独自の表現を工夫する。	○	○	◎	
		鑑賞1 (西洋音楽)	ブラームス、ラフマニノフ	・それぞれの作曲家の生涯を学び、代表曲を鑑賞する。 ・感想をグループで共有し、多様な感性に触れる。	○			◎
	2学期	創作の楽しみ	創作1 身近な音を使って曲をつくろう	・リズムアンサンブルの楽曲を制作し、グループで演奏する。その中から1曲を選び練習し、発表する。その際、強弱や音色を工夫する。	○	○	◎	○
		歌の楽しみ2 (世界の歌)	Après un rêve	・フランスの歌曲の歌唱により、フランス語の特徴を学ぶ。 ・曲想に合わせた歌唱表現を工夫する。	○	◎	○	
		器楽アンサンブル	愛のテーマ、スタジオジブリ リメドレー、E-TEN-RAKU	・グループで任意の楽曲を選択し練習、発表する。	○	○	◎	○
		鑑賞2 (舞台芸術)	バレエ《くるみ割り人形》 オペラ《椿姫》 ミュージカル《ウェスト・サイド物語》	・舞台芸術の特徴をつかみ、鑑賞のポイントを学ぶ。 ・舞台芸術における音楽の重要性について理解する。	○			◎
	3学期	歌の楽しみ (ゴスペル)	Amazing Grace	・ゴスペルが生まれた時代背景を学ぶ。 ・フェイクに挑戦し、自分なりの表現を工夫する。	○	◎	○	
		合唱	上を向いて歩こう 一日の終りに	・声の音色やハーモニーの美しさを感じる。 ・合唱における自分の役割を意識しながら、表現を工夫してアンサンブルの喜びを味わう。	○	◎	○	
		鑑賞3 (作曲家プレゼンテーション)	資料プリント	・グループごとに調べる作曲家を設定し、テーマに沿って研究発表する。尚、発表は任意の楽曲の鑑賞を伴うものとする。	○			◎

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
① 関心・意欲・態度 音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	② 芸術的な感受や表現の工夫 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	③ 創造的な表現の技能 自己のイメージをもち、創造的な表現をするための技能を身に付けている。	④ 鑑賞の能力 多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。
評価の方法			
歌唱・器楽等の実技テストに加え、提出物(感想文、課題等)の内容も含めて総合的に評価します。また、平常の授業態度や積極性は大きいに評価の対象となります。筆記による定期考査は行いません。			

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	芸 術	科 目	美術Ⅱ	学 年	2	類 型	商業科
単位数	1	教科書	美術 2		出版社	光村図書	
副教材							

学習の目標	絵画や立体、イラストなどの幅広い創造活動を体験することで、感じ取ったことや考えたことを適切に表現する能力を身に着けます。また、美術作品の鑑賞能力を高め、美術を愛好する気持ちと芸術的感性を育てます。
授業の概要	1年次で学んだ基本的な造形能力をもとにして、2年次では特徴のある題材に挑戦し、自己の感性の世界を大胆に表現します。

	週	単 元	教 材	学 習 内 容	評価の観点			
					①	②	③	④
年 間 学 習 計 画	1 学 期	デザイン	立体イラスト	・キャラクターをデザインし、立体イラストに仕上げるための変形を行う。トーンについて学習し、まとまりのある配色を工夫する。	○	◎	◎	
	2 学 期	絵画	スケッチ	・樹木や行内の一角などをスケッチし、身近なものを描くことを楽しむ。	○		◎	
		絵画	ドライポイント	・スケッチをもとに構成し、ドライポイントの技法を学び、版画としての表現の工夫をする。	○	◎	◎	
3 学 期		工芸	キーホルダーの制作	・文字（ロゴ）やイラストの工夫を行い、真鍮エッチング制作の工程を学びながら、表現の工夫とオリジナル作品のよさを味わう。	○	◎	◎	

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
② 関心・意欲・態度	⑤ 芸術的な感受や表現の工夫	⑥ 創造的な表現の技能	⑦ 鑑賞の能力
美術に関する知識や技能を高めることに積極的で、より豊かなで力強い表現になるよう努力している。	作品のテーマについて真剣に考え、そのテーマのために幅広い視野から様々な技法に取り組んでいる。	表現したい対象を鋭く観察したり、創造する力があり、それを表現する技術が巧みである。	美術作品に対する知識が豊富であり、作家の制作意図や作品の背景を的確に理解し、教師や友人と意見を交換したり批評したりできる。
評価の方法			
授業を通じての作品の成績を総合的に評価します。また、平常の授業態度や作品制作のための準備と取り組む姿勢、鑑賞などでの発表の態度なども評価の対象になります。			